

■ 電気電子工学課程 AEGG ポリシー

<p>POLICY G₁</p>	<p>【学位授与方針】 (Graduation Policy / Diploma Policy)</p> <p>工学部 電気電子工学課程は、全学の学位授与方針（G1 ポリシー）に基づき、所定の卒業要件単位を修得することを通して、本学の「共通学士力」並びに本課程の「専門学士力」を身に付けた学生に対し、卒業を認定し、「学士（工学）」の学位を授与する。</p>
<p>POLICY G₂</p>	<p>【学生の指導方針】 (Guidance Policy)</p> <p>電気電子、医療、電力、自動車産業の分野で指導的役割を担って活躍する電気電子技術者を育成するため、以下の方針で指導する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学内外の多様な正課外活動や研究成果発表の場への参加を積極的に奨励し、社会の一員としての自覚を醸成する。 2. 職業意識の醸成、適性検査、OB 講演会、職種研究、面接練習等を、入学時から段階を踏んで就職指導を行う。 3. 重点キャリア資格に関しては、資格取得のための対策講座を開講して積極的に支援する。
<p>POLICY E</p>	<p>【教育課程表の編成・実施の方針】 (Education Policy / Curriculum Policy)</p> <p>電気電子工学分野のハードウェアとソフトウェアの専門性を備えた人材育成を目標に、教育・研究指導を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個の尊重と実践教育を方針として、基礎科目では習熟度別学修に取組み、また演習・実験・卒業研修等の能動的学びにより専門知識と技術を実学として教育する。 2. 1, 2 年次では、一般（基礎）、電気電子工学（基礎）、情報（基礎）から構成される専門基礎科目を設定する。 3. 3, 4 年次では、一般（応用）、電子機械・ロボット、医工学・バイオ、光・情報デバイス、電気・エネルギーの分野に関する電気電子工学（応用）、情報（応用）から構成される専門応用科目を設定する。 4. 卒業研修により、課題発見・解決能力とプレゼンテーション能力を修得するように指導する。
<p>POLICY A</p>	<p>【入学者受入の方針】 (Admission Policy)</p> <p>本学で定める入学条件に加え、以下の条件を満たす人の入学を強く希望する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 電気電子工学に興味を持ち、この分野に関して自ら学び・自ら考え、さらに新しいことに自ら挑もうとする強い意志のある人 2. 今日の高度情報化社会における電気電子、医療、電力、自動車産業の分野で活躍し、自らの専門知識と技術で社会の役に立ちたいと考えている積極性のある人

工学部 電気電子工学課程

■ 電気電子工学課程の「専門学士力」および学修成果（到達目標）

【専門学士力】	【到達目標】
①工学基礎	数学、物理、化学などの自然科学の基礎知識を修得し、電気電子工学の知識取得に活用することができる。
②電気電子基礎	電気回路、電磁気学、電気電子計測の基礎知識を修得し、それらを説明することができる。
③電気電子応用	電気回路や電子回路の専門的な知識を修得し、電気電子分野の課題解決に応用することができる。そして、以下のいずれかの分野の専門的な知識を修得し、それぞれの研究に応用することができる。 <ul style="list-style-type: none">・光・情報デバイス系:固体電子工学、電気電子材料・医工学・バイオ系:センサ工学、バイオ・光エレクトロニクス・電子機械・ロボット系:制御工学、ロボティクス・電気・エネルギー系:パワーエレクトロニクス、エネルギー変換工学
④情報技術	情報技術およびプログラミングを学修することにより計算機に関する基礎的な知識を修得し、実践的なプログラムを作成することができる。さらに、デジタル信号処理、画像処理、組込システムなど情報に関する専門的な知識を修得し、情報分野の課題解決に応用することができる。
⑤電気電子工学総合	アクティブラーニングを通して、電気電子工学分野の専門知識を理解・統合し、電気電子工学に関する問題を自ら適切に判断して、対処することができる。

■ 情報通信工学課程 AEGG ポリシー

<p>POLICY G₁</p>	<p>【学位授与方針】 (Graduation Policy / Diploma Policy) 工学部 情報通信工学課程は、全学の学位授与方針（G1 ポリシー）に基づき、所定の卒業要件単位を修得することを通して、本学の「共通学士力」並びに本課程の「専門学士力」を身に付けた学生に対し、卒業を認定し、「学士（工学）」の学位を授与する。</p>
<p>POLICY G₂</p>	<p>【学生の指導方針】 (Guidance Policy) ・社会に役立つ情報処理技術者、通信技術者を育成するため、セミナー系科目全体を通じたキャリアガイダンスの実施により、学生が自身の適性を発見することを促す。 ・進路指導員を全学生に割り当て、個人面談を定期的実施して学生のキャリア形成を支援する。 ・資格取得を積極的に支援し、卒業後の学生の活躍に役立てる。</p>
<p>POLICY E</p>	<p>【教育課程表の編成・実施の方針】 (Education Policy / Curriculum Policy) ・情報処理技術者、通信技術者を育成するため、情報処理技術と通信技術、これらを融合した技術を体系的に学べるようカリキュラムを編成する。 ・1 年次では情報処理技術と通信技術の両方の基礎となる科目を配置し、専門を学ぶ力を付けさせる。 ・2 年次から 3 年次では、情報処理技術と通信技術、および両者の融合分野の専門科目を配置し、高度な専門知識・技術を学べるようにする。 ・4 年次では卒業研修科目を配置し、勉学の集大成としての卒業研究を通して技術者として必要な能力を身に付けさせる。</p>
<p>POLICY A</p>	<p>【入学者受入の方針】 (Admission Policy) 高度情報化社会を支えている情報通信分野に関心を抱き、将来この分野で活躍したいとの意欲と目的を持ち、基礎学力を身に付け総合的な判断力を有する者、あるいは情報通信分野に秀でた能力を有する者、多様な活動実績等を有する者を求める。</p>

工学部 情報通信工学課程

■ 情報通信工学課程の「専門学士力」および学修成果（到達目標）

【専門学士力】	【到達目標】
①工学基礎	数学や物理などの基礎知識を身に付け、情報通信工学の知識修得に応用することができる。
②情報ネットワーク	コンピュータハードウェア、コンピュータネットワークに関する基礎知識を身に付け、デジタル信号処理、情報理論、セキュリティなどの理解に応用することができる。
③情報プログラミング	基本的なアルゴリズム、データ構造に関する基礎知識を身に付け、基本的なプログラミングができるようになり、各種アプリケーションや組み込みシステムのプログラミングの理解に応用することができる。
④通信システム	通信システムの基礎知識を身に付け、光通信システム、無線通信システムなど各種通信システムの理解に応用することができる。
⑤通信デバイス	電気回路、電子回路の基礎知識を身に付け、光ファイバ、レーザ、アンテナなど各種通信デバイスの理解に応用することができる。
⑥情報通信工学 総合	情報通信工学に関する基礎実験や卒業研修を通じて、情報通信工学に関する課題を解決する能力を身に付け、様々な課題への対処に応用することができる。

■ 都市工学課程 AEGG ポリシー

<p>POLICY G₁</p>	<p>【学位授与方針】 (Graduation Policy / Diploma Policy)</p> <p>工学部 都市工学課程は、全学の学位授与方針（G1 ポリシー）並びに学習・教育到達目標に基づき、所定の卒業要件単位を修得することを通して、本学の「共通学士力」並びに本課程の「専門学士力」を身に付けた学生に対し、卒業を認定し、「学士（工学）」の学位を授与する。</p>
<p>POLICY G₂</p>	<p>【学生の指導方針】 (Guidance Policy)</p> <p>本課程 G1 ポリシーに基づき、以下の方針で学生指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none">・学内外の様々な正課外活動を推奨し、マネジメント能力やコミュニケーション能力の醸成を図る。・現場見学会、インターンシップ、プランナー研修など、課程で認めた活動に参加して規定のポイントを獲得した場合には単位を認定することや、課程が指定した資格を取得した場合には受験料を支給することなどにより、学生の自主的な活動を支援する。・CE 進路セミナーにより、倫理に関する講話・指導、卒業生による講話、現場見学、就職試験模試を実施し倫理教育、キャリア教育を行う。
<p>POLICY E</p>	<p>【教育課程表の編成・実施の方針】 (Education Policy / Curriculum Policy)</p> <p>本課程の G1 ポリシーに基づき、以下の方針で教育を行う。</p> <ul style="list-style-type: none">・シラバスでは、各科目のカリキュラム中での位置づけを、学習内容の関連性の流れを主眼とした「履修の流れ」として図示する。・さらに、シラバスには、各科目の授業内容・方法(授業の概要、授業計画など)、到達目標(達成目標)、成績の評価方法・評価基準はもちろんのこと、学習・教育到達目標と学習・教育到達目標(A)～(F)との関係の強さを「%」表示で示す。
<p>POLICY A</p>	<p>【入学者受入の方針】 (Admission Policy)</p> <p>社会基盤の計画と建設および維持管理に関心を持ち、土木分野におけるリーダーまたはプロフェッショナルとして、地域の歴史や風土を生かした未来をデザインし、心豊かに暮らせる個性的で良質な地域社会を創り出そうとする、その意欲と能力のある人を求める。</p>

工学部 都市工学課程

■ 都市工学課程の「専門学士力」および学修成果（到達目標）

【専門学士力】	【到達目標】
①工学基礎	都市工学の専門科目修得に必要な数学・物理・化学等の自然科学の知識を学び、それらを活用して社会や自然環境の問題を発見・理解し、その改善方法を考える能力を身に付けている。
②土木材料・構造工学	コンクリートでは配合設計や硬化・発熱現象等また鋼では力のバランスや破壊現象等の基本的な知識を身につけ、構造物の設計、施工、維持管理等に必要な構造工学の基礎が理解できる。
③地盤工学	土という粒の集合体である特殊な材料について基本的な知識を身につけ、そのふるまいを有効応力の原理に基づき理解し、圧密、土圧や支持力・斜面安定等の諸問題について理解できる。
④水工学・土木環境システム	水工学では水の流れや河川・海岸の状況等また環境では洪水や災害などの基本的な知識と思考力を身につけ、環境保全等の社会課題について自主的・継続的に学び続けることができる。
⑤土木計画学・建設マネジメント	都市や交通の計画に必要な基礎的な知識と思考力を身につける。また建設事業の理解と課題解決に向けた取り組み、建設プロジェクトの管理に必要な知識と応用力を養う。
⑥都市工学総合	解決すべき研究課題について自主的・継続的に考えとともに、専門知識を活用して科学的かつ論理的な卒業論文の作成ができ、その内容を適切にプレゼンテーションできる。 (詳細は、別表「卒業研修ルーブリック」による)

■ 環境応用化学課程 AEGG ポリシー

<p>POLICY G₁</p>	<p>【学位授与方針】 (Graduation Policy / Diploma Policy) 工学部 環境応用化学課程は、全学の学位授与方針 (G1 ポリシー) に基づき、所定の卒業要件単位を修得することを通して、本学の「共通学士力」並びに本課程の「専門学士力」を身に付けた学生に対し、卒業を認定し、「学士 (工学)」の学位を授与する。</p>
<p>POLICY G₂</p>	<p>【学生の指導方針】 (Guidance Policy) ・持続可能な社会づくりに寄与する応用化学技術者・環境保全技術者を育成するため、指導教員が中心となり学生の特性を理解し、個々にきめ細かく成長を助け、自身の進路の選択を通し自己を確立していくことができるよう指導を行う。 ・そのために定期的な個人面談やキャリアガイダンスの実施を行い学生のキャリア形成の支援を行う。 ・さらに、関連する資格取得対策講座を開講するなど、キャリア形成を積極的に支援する。</p>
<p>POLICY E</p>	<p>【教育課程表の編成・実施の方針】 (Education Policy / Curriculum Policy) ・応用化学と環境学の体系的な専門教育と技術者倫理など一般教養教育を基礎として、応用化学および環境保全技術者の育成を目標に教育・研究指導を行う。 ・1 年次に取り組む一般科目では専門の基礎知識としての工学・環境基礎、リテラシーの科目を設定する。 ・2 年次から 3 年次では、応用化学分野では化学の基礎から開発・製造技術、環境学分野では環境分析・調査技術などの専門科目を設定する。 ・また演習および実験科目を設定し、講義と有機的に結合した高い専門性を持った知識と技術を習得するようにする。 ・3、4 年次に取り組む卒業研修では、持続可能な社会を支える知識と問題発見能力・解決能力・コミュニケーション能力を持った人材を育成する。</p>
<p>POLICY A</p>	<p>【入学者受入の方針】 (Admission Policy) 材料・素材開発などの応用化学やそれを工業化するための化学工学技術、化学物質による人体・生態系への影響評価と公害防止などの環境保全技術に関心を持ち、基礎学力と高い倫理観を身に付け、持続可能な社会を実現していくための工学に根ざした専門能力を築き上げる意欲を持つ人を求める。</p>

工学部 環境応用化学課程

■ 環境応用化学課程の「専門学士力」および学修成果（到達目標）

【専門学士力】	【到達目標】
①工学基礎	数学（微分積分学Ⅰ）、物理学（物理学Ⅰ）の基礎的知識を身に付け、環境応用化学の知識習得に応用することができる。
②化学基礎	環境と化学の理解に必要な基盤となる化学分野（無機化学、有機化学Ⅰ、分析化学）の基礎知識を身に付け、それを説明することができる。
③化学応用	環境と化学の理解に必要な応用化学分野（機器分析Ⅰ、化学工学）の知識を身に付け、それを説明することができる。
④環境学	環境保全・環境影響評価にかかわる環境学分野（循環型社会形成論）の知識を身に付け、それを説明することができる。
⑤環境応用化学 総合	1～4の専門学士力にかかわる技術と知識を内包・総合して環境応用化学分野の専門知識を理解・統合し、卒業研修に取り組み、卒業論文として発表することができる。